

題： 「クリスマス・プレゼント」

聖書箇所 ルカによる福音書 2章11節

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシヤである。」

クリスマスはプレゼントを待ち望む時でもあります。クリスマス・プレゼントの起源についてはつまびらかにしませんが、東方の博士たちがお生まれになったばかりのイエス様を訪問したときに持ってきた贈り物あたりが起源でしょうか。それはともかく、プレゼントをする習慣というものは、それが打算に満ちていなければ素晴らしいものです。私の家は貧しかったので、お誕生日会やパーティーには行かないことにしていました。プレゼントを用意できないからです。この習慣は恐ろしいもので、私は人にプレゼントすることを思いつかないけちな人間に育ちました。これは実に残念なことです。あの人に何をあげたら喜ぶだろうか、ということを考えてことがなく成人の日を迎えてしまったのです。人から何かをもらうことには慣れていますが、人に何かプレゼントするなどということは全く思いつかないのです。たとえ少ない予算であっても、それを工夫して、Aさんにはこれがよいだろうか、Bさんにはあれがよいだろうか等と考える、プレゼントの喜びをしがなかったことは実に残念なことでした。イエス・キリストを信じた日から、そのような喜ばしい文化に触れることが出来たのも新鮮でうれしいことでした。

さて、しかし、私は本日申したいのはいわゆるサンタクロースが持ってきてくれるプレゼントのことで、また500円以内で買ってくるように命じられるクリスマス会の交換プレゼントのことでありません。そうではなくて、クリスマスに生まれ給うたイエス・キリストこそ、私たちの唯一のクリスマス・プレゼントだと申したいのです。ルカによる福音書 2章11節は言っています。

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシヤである。」

クリスマスのありがたきプレゼントは、こうして与えられた救い主イエス・キリストしかありません。

ここで私はマルティン・ルターが唱えていたという祝祷の一節を思い出します。曰く

「願わくは、我らが主にのみ喜びを見出すまで、主のみを見、主のみに聞くように」

キリスト教がイエス・キリストに集中するのは当然です。どうか、今日初めてここにお出でくださった方々も、このことをお覚えください。あなたがこのクリスマス・プレゼントであるイエス・キリストをお受け取り下さるなら、あなたの人生はこの上なく豊かなものとなるでしょう。どうか皆さん、本日この時、このプレゼントをあなたの心の直中にお受け取りください。プレゼントを頂いたら、すぐにお礼状を書くのが常識です。私などはいつも遅れ勝ちで、恩知らずなことです。それはともかく、イエス・キリストへのお礼状は、お祈りという仕方でイエス・キリストに直接お出しください。あて先は「神様」と最初に

言ったださるだけで結構です。

祈り

神様、素晴らしくもかけがえのないクリスマス・プレゼントであられるイエス・キリストを私たちにプレゼントしてくださり、有難うございました。あなたによって、この場にお集まりの全ての方々が今更の如く救われますようにお祈りいたします。この祈り、主イエス・キリストのみ名によって御前におささげ致します。アーメン